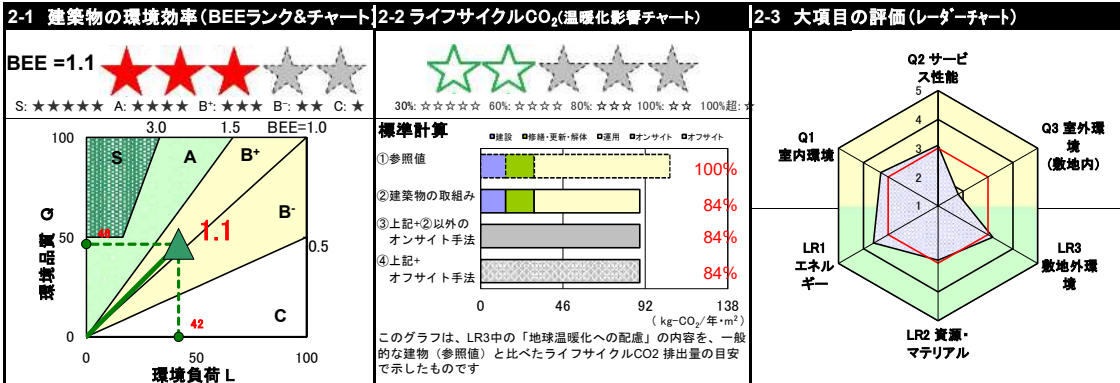
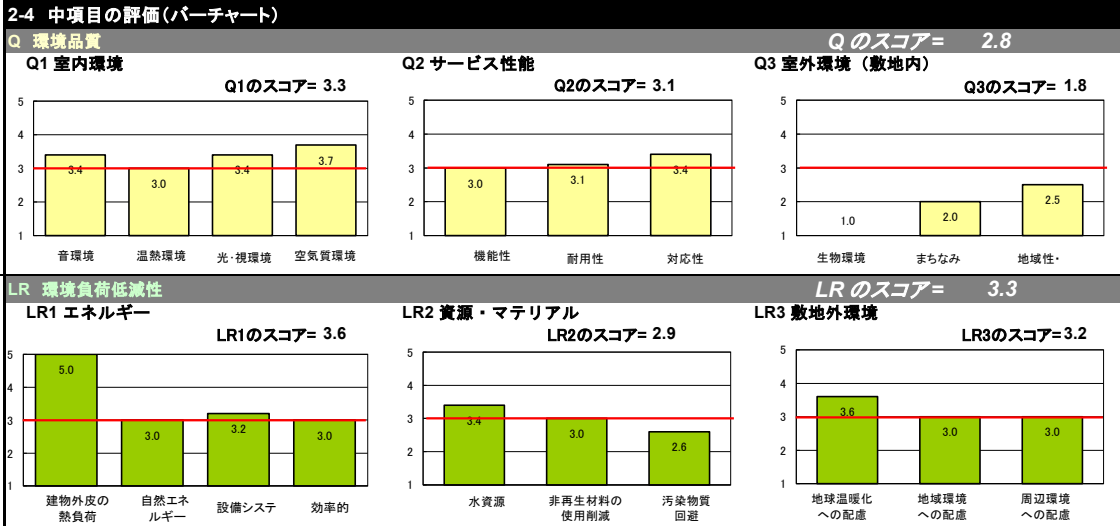


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社 協豊製作所 本社工場 事務棟	階数	地下0階地上3階
建設地	愛知県豊田市トヨタ町6-1の一部	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	250 人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2028年9月 予定	評価の実施日	2026年3月9日
敷地面積	6,144 m ²	作成者	浅川 朋紀
建築面積	1,933 m ²	確認日	2026年3月9日
延床面積	4,638 m ²	確認者	浅川 朋紀



3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
3.6	1.0
	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
	1.6 %
	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
	0.0 %
②資源の有効活用	④地域材の活用
3.1	1.0
	<外装材に使用した地域性のある材料>
	なし
	<建物の構造材・内装材・外構に使用した地域性のある素材>
	なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮
②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
株式会社 協豊製作所 本社工場 事務棟

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		独自基準		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目		重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質										2.8	
Q1 室内環境						0.40			-	3.3	
1 音環境				0.4	3.4	0.15			-	3.4	
1.1 室内騒音レベル				3.0	3.0	0.40		3.0	-		
1.2 遮音				0.4	3.0	0.40			-		
1 開口部遮音性能				-	3.0	0.60		3.0	-		
2 界壁遮音性能				-	3.0	0.40		3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	3.0	-		3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	3.0	-		3.0	-		
1.3 吸音			床・天井・壁それぞれに吸音材料を採用	-	5.0	0.20		3.0	-		
2 温熱環境				0.3	3.0	0.35	-	-	-	3.0	
2.1 室温制御				0.5	3.5	0.50	-	-	-		
1 室温				3.0	3.0	0.38		3.0	-		
2 外皮性能			各外皮の面積比率によりレベル選定	3.0	5.0	0.25		3.0	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	3.0	0.38			-		
2.2 湿度制御				3.0	2.0	0.20		3.0	-		
2.3 空調方式				3.0	3.0	0.30		3.0	-		
3 光・視環境				0.2	3.4	0.25	-	-	-	3.4	
3.1 昼光利用				0.3	1.8	0.30	-	-	-		
1 昼光率				3.0	1.0	0.60		3.0	-		
2 方位別開口				-	-	-			-		
3 昼光利用設備				3.0	3.0	0.40		3.0	-		
3.2 グレア対策				0.3	4.0	0.30	-	-	-		
1 昼光制御			ブラインド・庇で昼光を制御する	5.0	4.0	1.00		3.0	-		
3.3 照度				3.0	3.0	0.15		3.0	-		
3.4 照明制御			リモコンで1作業単位ごと照明を制御できる	3.0	5.0	0.25		3.0	-		
4 空気質環境				0.2	3.7	0.25	-	-	-	3.7	
4.1 発生源対策				0.5	4.0	0.50	-	-	-		
1 化学汚染物質			建築基準法規制対象外となる建材をほぼ全面的に使用	3.0	4.0	1.00		3.0	-		
4.2 換気				0.3	3.0	0.30	-	-	-		
1 換気量				3.0	3.0	0.33		3.0	-		
2 自然換気性能				3.0	3.0	0.33		3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	3.0	0.33		3.0	-		
4.3 運用管理				0.2	4.0	0.20	-	-	-		
1 CO ₂ の監視				3.0	3.0	0.50			-		
2 喫煙の制御			喫煙室なし	3.0	5.0	0.50			-		
Q2 サービス性能						0.30	-	-	-	3.1	
1 機能性				0.4	3.0	0.40	-	-	-	3.0	
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	3.0	0.40	-	-	-		
1 広さ・収納性				3.0	3.0	0.33		3.0	-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	3.0	0.33		3.0	-		
3 バリアフリー計画		独自		3.0	3.0	0.33			-		
1.2 心理性・快適性				0.3	3.6	0.30	-	-	-		
1 広さ感・景観 (天井高)			オフィスCH:3.000m	3.0	5.0	0.33		3.0	-		
2 リフレッシュスペース			オフィスに対し7%の休憩エリアを確保・売店の設置	3.0	5.0	0.33			-		
3 内装計画				3.0	1.0	0.33			-		
1.3 維持管理				0.3	2.5	0.30	-	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	3.0	0.50			-		
2 維持管理用機能の確保				-	2.0	0.50			-		
2 耐用性・信頼性				0.3	3.1	0.31	-	-	-	3.1	
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.0	0.48	-	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80			-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20			-		
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.5	0.33	-	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				-	3.0	0.23			-		
2 外壁仕上材の補修必要間隔		②		-	3.0	0.23			-		
3 主要内装仕上材の更新必要間隔			主要内装仕上は更新間隔の長い部材を採用	-	5.0	0.09			-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			屋外配管はステンレス鋼板を採用	-	4.0	0.08			-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			主用途上位3種の2種類以上にBを採用、Eは採用しない	-	5.0	0.15			-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	3.0	0.23			-		
2.4 信頼性				0.1	2.6	0.19	-	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20			-		
2 給排水・衛生設備				3.0	2.0	0.20			-		
3 電気設備		②		3.0	3.0	0.20			-		
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20			-		
5 通信・情報設備				3.0	2.0	0.20			-		

3 対応性・更新性				0.2	3.4	0.29	-	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり				0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		3.700m以上の階高を確保	-	5.0	0.60		3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		壁長さ比率:0.17	3.0	4.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17		-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17		-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22		-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	-	0.30	-	-	-	1.8
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		-	2.0	0.40	-	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④		-	3.0	0.50	-	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上			-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー				-	-	0.40	-	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.63	3.0	5.0	0.30	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.20	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.78	3.0	3.2	0.30	-	-	-	3.2
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	3.0	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	-	0.30	-	-	-	2.9
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			自動水栓機能つき水栓が主要水栓の過半を占める 擬音装置付き、洗浄水量の少ない便器の採用(大4.8L・小2L)	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.0	0.63	-	-	-	3.0
2.1	材料使用量の削減			-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	②	-	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	-	3.0	1.0	0.21	-	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材			3.0	-	-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	独自	躯体+LGS+ボード(断熱材はGW敷き込み)/OAフロア	3.0	5.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	2.6	0.22	-	-	-	2.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	2.5	0.68	-	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			-	2.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境				-	-	0.30	-	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率84%	-	3.6	0.33	-	-	-	3.6
2 地域環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			燃焼機器の使用なし	-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自		-	-	-	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制			-	3.0	-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE:建築(新築)2016年版+あいち版手引き

株式会社 協豊製作所 本社工場 事務棟

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点		全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策					3.6
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	3.1	
② 資源の有効活用					
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09		
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09		
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19		
③ 敷地内の緑化					1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:1.6%/建物緑化:0%	
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0	
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

環境設計の配慮事項

■建物名称 株式会社 協豊製作所 本社工場 事務棟

計画上の配慮事項	
総合	法令を遵守し来訪者・従事者とも活動しやすい空間となる設計に加えて省エネ性能を満たす建築物とする。 各フロア空間を広く感じられる設計とし、 従事者には十分なリフレッシュスペースを備え、フレキシブルな業務を可能とするオフィスレイアウトとする。
Q1 室内環境	従事者が不快と感じる室内環境とならぬよう配慮する。 特にオフィス一面は大きく開口しているため開放感を与える分、とりわけ光・温熱に対してはデメリットとならぬよう配慮を行う。
Q2 サービス性能	メンテナンスのしやすい内外装の採用、耐用年数の長い配管の採用、EPSについても一箇所にとりまとめ明確な設備計画としている 意匠性にも可能な限り配慮し、利用者が心地よく過ごせるデザインとする。
Q3 室外環境(敷地内)	既存緑地を保存し敷地内緑化を維持する計画とする。 見通しの良さを確保しつつ、屋外照明と組み合わせ防犯性に配慮する。
LR1 エネルギー	外皮の熱負荷低減を目指し設備システムの省エネ化に努める。 中央監視システムを導入し入居者自らがエネルギー管理を可能とする。
LR2 資源・マテリアル	洗面器における水栓は自動水栓機能つきとし節水型便器の採用とともに水資源に対し配慮する。
LR3 敷地外環境	厨房以外のインフラ設備についてはガス燃焼機器を導入せず、 敷地外へ大気汚染物質を発生させない。 建物後流域への風回復、日照及び光害についても敷地外
その他	